

# 新年のごあいさつ



足羽福社会 理事長  
高村 昌裕

新年あけましておめでと  
うございます。

平成25年11月末、皆様のおかげをもちまして福井市大和田にある「子ども発達支援センター フレンズあすわ」の設置工事が無事完了しました。障がいのある子どもたちを地域で支え、教育や医療・保健との連携により、就学前や卒業後の進路決定において途切れない支援をしていく中核的施設として、しっかりと役割を果たせる

よう努めてまいります。

さて近年、障がいのある方を雇用しながら就労支援をすすめるA型の事業所や、お年寄りの地域生活を支える小規模多機能型のサービス等において、NPO法人や企業の参入が急激に進み、よりの質の高いサービス提供が求められるようになってきました。このような社会環境や制度変革にも対応し、皆様から信頼され、選ばれる事業者となるために、現

場からの「企画提案力」や「問題解決力」が昨今、強く求められています。

当法人では平成24年度から約2年かけて、中堅職員を対象とした「企画力研修」を行ってきました。一般企業向けの経営コンサルタントを講師に、問題の根源を捉えるために考え続けることや、問題解決を図るうえで具体的に行動レベルまでを計画に落とし込むことの重要性を切々と学びました。参加した職員は、ふだん使わないビジネス的な考え方や手法に最初は戸惑っていましたが、チームで話し合い、企画を発表し、指摘をたくさん受け、また考え直すといった取り組みを繰り返しました。

これまで福祉は慈善的活動で、営利目的のビジネスとは別物として語られることが多かったのですが、実は目標が異なるだけで、目標達成のための手段、特に人材育

成や組織のマネジメント手法については、ビジネス現場に学ぶことが多くあります。そして達成するまで諦めずにチャレンジし続ける強い意志や行動力といった部分は、福祉サービスが全くなかった時代に我々の先人たちがもち続けていた福祉の原点にも通じることに気がつきました。

そんな企画力研修2年間の集大成として、各事業所グループ単位で、職員自ら取り組むべき平成26年度事業計画を発表していただき、数多くの具体的な企画提案が出されました。

もちろん、利用者の方の人生がよりよくなるよう応援すること、かつ地域社会に役立つ存在であり続けることが、私たちの大きな目標であることもしっかり確認できました。あとは試行錯誤しながら徹底してチャレンジし続けるのみです。若い職員の熱意ある発表に、私や各施設長も手応えを感じています。

本年もさまざまな福祉ニーズに応えていけるよう、笑顔全開でチャレンジしてまいります。利用者の方やご家族と共に、地域社会と共に、そして職員と共に。何とぞ皆様のご理解、ご支援をお願いいたします。

